

## 育児不安への対応

その3. 幼児をもつ母親のストレスの要因について  
(分担研究：被虐待児の地域システムに関する研究)

### 研究協力者報告書

研究協力者：

山中龍宏<sup>1)</sup>、飯島純夫<sup>2)</sup>、山縣然太郎<sup>3)</sup>、浅香昭雄<sup>2)</sup>

**要約：**夫婦の人間関係と親子関係（母-子・父-子）は相互に影響し合っていることがわかった。特に、母親にとって、夫婦の人間関係が良好で、夫の情緒的支援が得られることと、父親が子供に積極的に関わることは、母親の子供に対する姿勢に影響を与える傾向が認められた。

育児や母子関係に関しては、妊娠・出産などの延長として、主に生物学的な立場から多くの研究がなされてきた。それに比較し、父親の役割等については注目されつつあるものの、いまだ研究事例も少ないのが現状である。

今回のアンケート結果からみても、今後父親の育児参加がより積極的に行われるよう、保健事業内容の検討や、教育・福祉・労政等の関係者との連携を図り、より良い子育て支援体制を作っていくべきと考えた。

### 見出し語：母親のストレス、育児不安

子どもの虐待のハイリスク要因のひとつとして、親の育児知識や育児姿勢に問題がある場合や孤立家庭があげられている<sup>1)</sup>。これらは母親のストレスとして考えることもできる。今回、健診の場として行っているアンケートの中から母親のストレスについて分析してみることとした。

3歳児健診時に母親を対象に行っているアンケート調査の結果、85.4%

(図1)の母親が「ストレスを感じたことがある」と答えている。その原因についてみると、「育児」、次いで「義父母との人間関係」、「夫との人間関係」(図2)の順であった。乳幼児健診等で、育児不安や義父母との関係についてはよく相談されるが、「夫との関係」は表面化しにくいのか、相談する人も少なくやや意外な結果であった。近年、父親不在や父親の育児参加の必要性が言われ

は始めているが、文献上では、育児については母子関係が中心で、父親と育児との関連のものは極めて少なかった。

そこで今回は、ストレスを感じる要因に「夫との関係」と答えた母親を対象として、夫婦関係・親子関係の相互の関連を分析してみた。

### 研究方法

山梨県某市において、1994年4月～1995年9月までに3歳児健診を受診した児376名を対象とした。アンケート用紙は、健診通知とともに郵送し、健診時に回収した。対象を、「夫との関係にストレスを感じている母親」(50人)と「夫との関係にストレスを感じていない母親」(326人)とし、比較分析した。

データの分析には、SASを用い、主に $\chi^2$ 検定で分析した。

1) こどもの城小児保健部

2) 山梨医科大学保健学II講座

3) 山梨大学保健管理センター

## 結果と考察

### 家族環境との関連

家族形態との関連は、「夫にストレスを感じている」母親の64%が核家族、36.0%が拡大家族となっており、「夫にストレスを感じていない」群と比較して、核家族の割合が多かった。

この他、出生順位（第1子と第2子以上との比較）、母親の職業、母親及び父親の年齢（30歳未満と30歳以上）、子の通園状況等では有意な差はみられなかった。

### I. 夫の育児参加と母親のストレスとの関連

図3に「育児に関して困ったとき誰によく相談しますか」について相談相手別に比較してみた。「夫との関係にストレスを感じている」人は、夫に相談する割合が少なかった。

逆に、「夫との関係にストレスを感じている」人は「友人・知人」に相談する割合が多かった。義母・実母・兄弟姉妹・医師・保健婦・その他の項目については、特に有意な差はみられなかった。

図4では、「ご主人とお子様のことについて話しをしますか」の問に対して、「夫との関係にストレスを感じている」母親は、「よくする」と答えた割合が少なく、「あまりしない」が多かった。

図5では、「ご主人はお子様とよく接していますか」の問に対して、「夫との関係にストレスを感じている」母親の夫は、「よく一緒に遊んだり、相手をしてあげている」割合が少なく、「あまりかまわないほうである」の割合が多かった。

以上のことから、夫婦の人間関係や父親の育児への積極的な参加は、母親の精神的な安定に影響を与える傾向があると考えられる。

## II. 夫婦の関係と母子関係

図6では、「お母様はお子様と一緒に戸外で遊んだり散歩したりしますか」の問に対し、「夫との関係にストレスを感じている」母親は、「よくする」と答えた割合が少なく、逆に「あまりしない」と答えた割合が多かった。

図7では、「あなたはお子様とゆったりとした気分で接していますか」の問に対し、「夫との関係にストレスを感じている」母親は、「はい」と答えた割合が少なく、逆に「いいえ」と答えた割合が多かった。

この他、「あなたはお子様の世話をするのが面倒に感じる日がありますか」の問に対しても、「夫との関係にストレスを感じている」母親は、「まったくない」と答える割合が少なく、「時々ある」「よくある」の割合が多い傾向がみられた。

以上のことから、「夫との関係にストレスを感じている」母親は、子供への育児態度にも影響が出ている傾向が認められた。

## 文献

1) 松井一郎：被虐待児予防の保健指導に関する研究. 平成7年度厚生省心身障害研究「親子のこころの諸問題に関する研究」報告書、p9-11,1996.

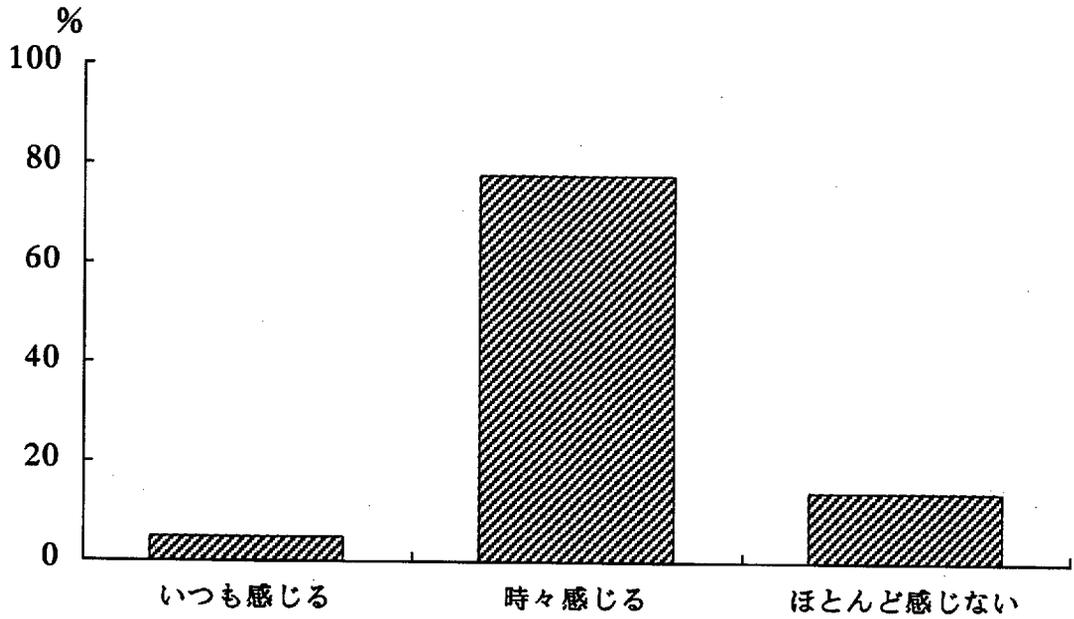


図1 ストレスを感じたことがある

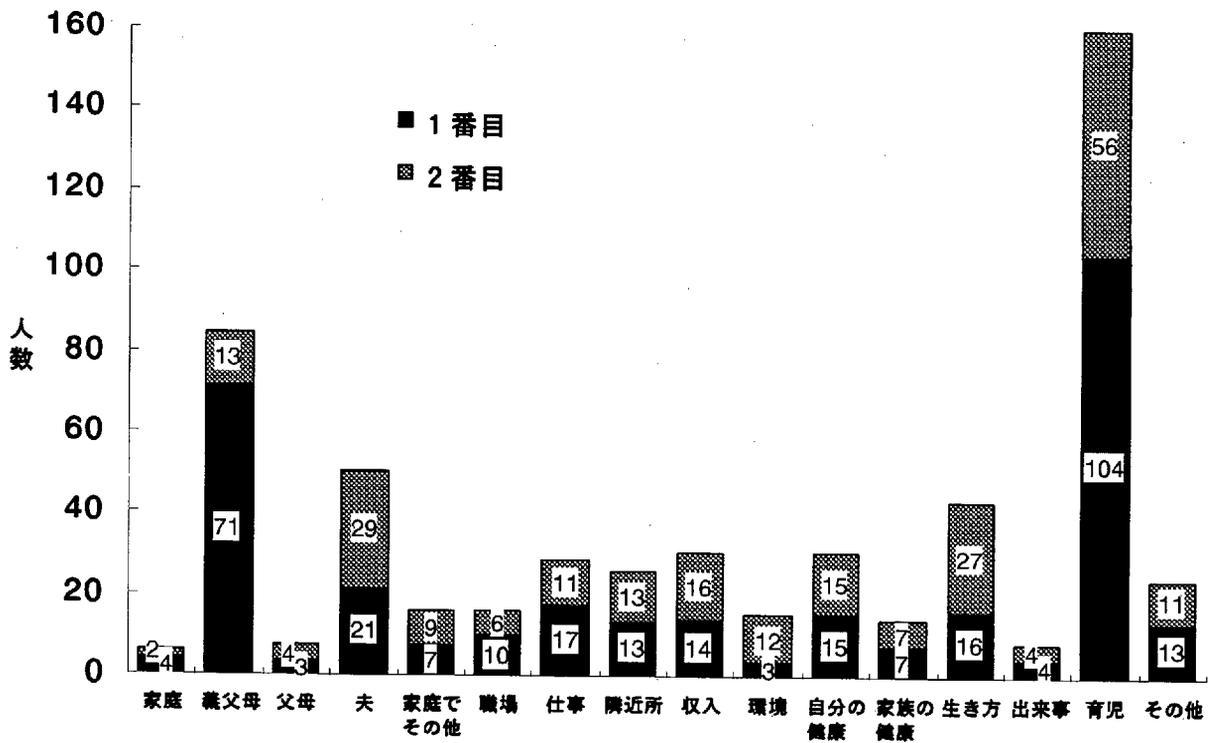


図2 ストレスの内容

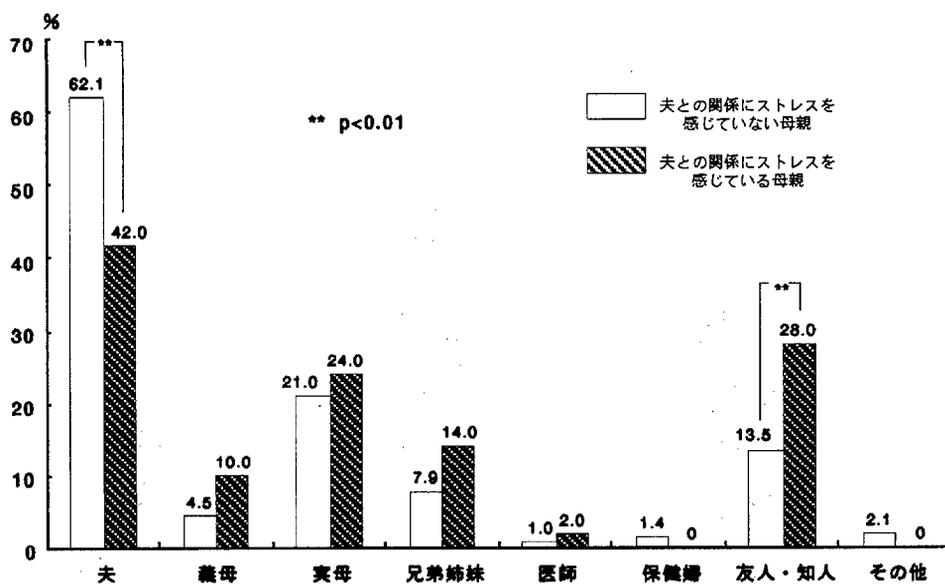


図3 育児で困った時の相談相手

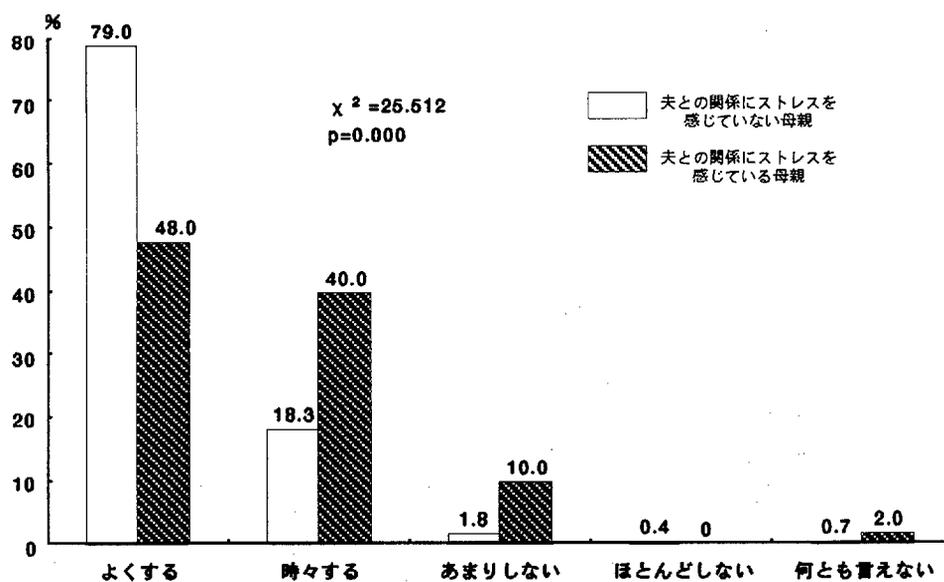


図4 夫と子どもの事について話す

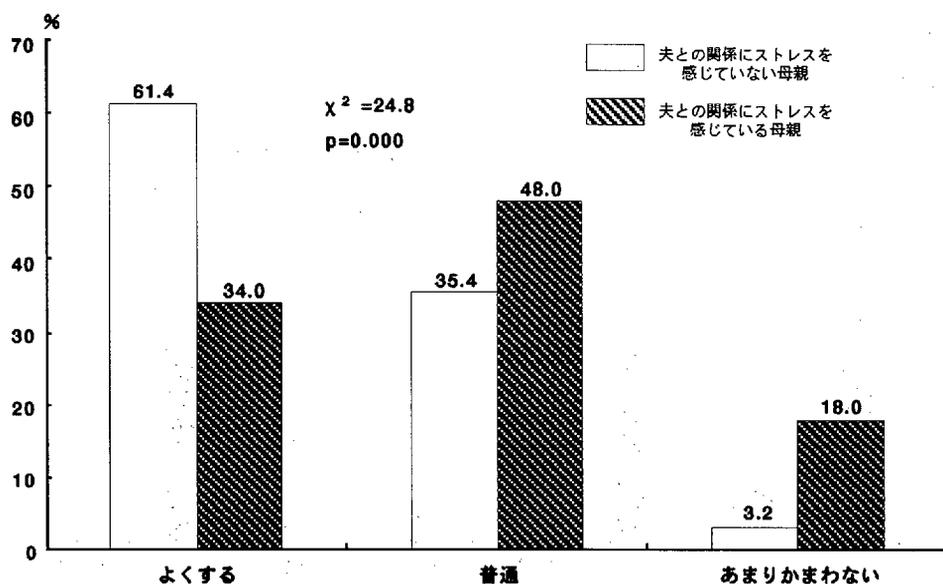


図5 夫が子どもとよく接している

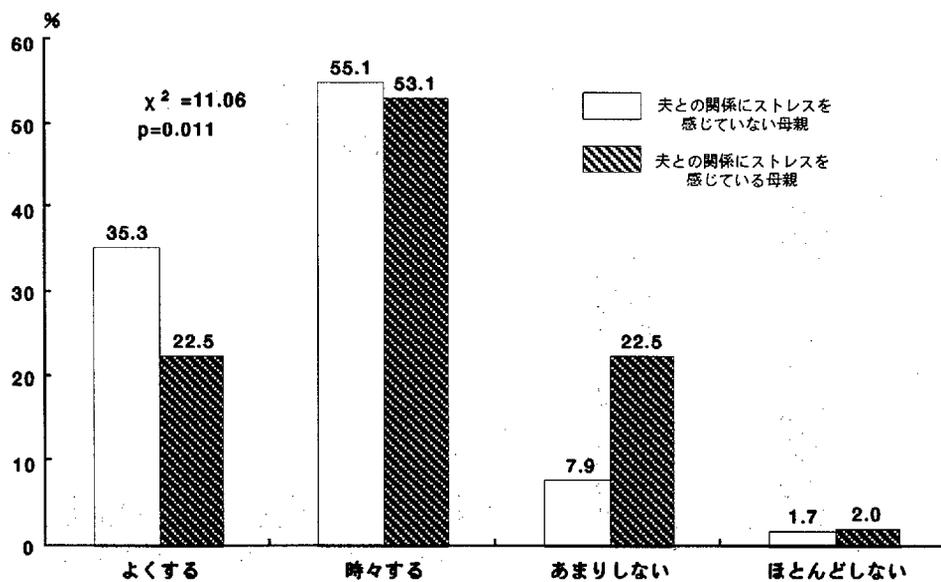


図6 子どもと一緒に戸外で遊ぶ

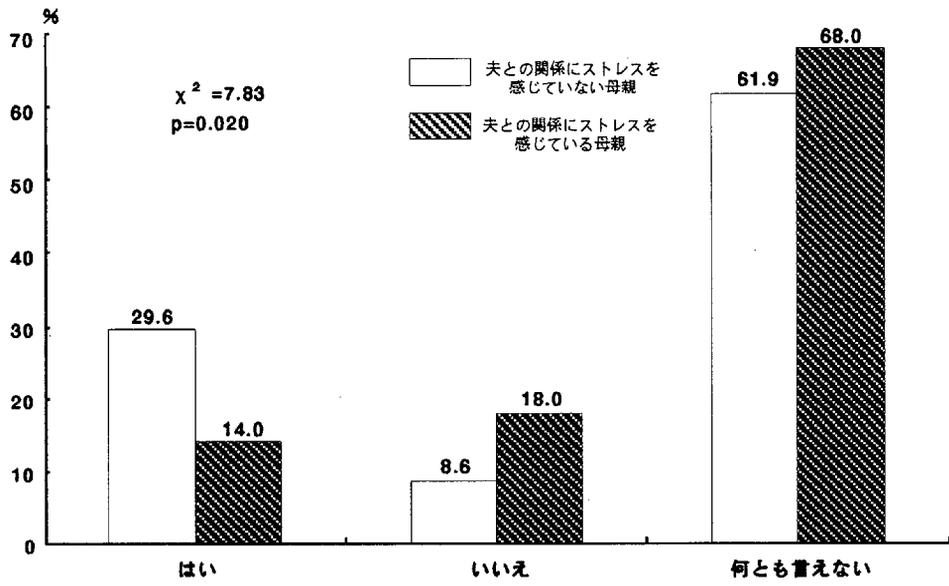
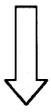
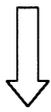


図7 子どもとゆったりした気分で接している



## 検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



要約:夫婦の人間関係と親子関係(母-子・父-子)は相互に影響し合っていることがわかった。特に、母親にとって、夫婦の人間関係が良好で、夫の情緒的支援が得られることと、父親が子供に積極的に関わることは、母親の子供に対する姿勢に影響を与える傾向が認められた。

育児や母子関係に関しては、妊娠・出産などの延長として、主に生物学的な立場から多くの研究がなされてきた。それに比較し、父親の役割等については注目されつつあるものの、いまだ研究事例も少ないのが現状である。

今回のアンケート結果からみても、今後父親の育児参加がより積極的に行われるよう、保健事業内容の検討や、教育・福祉・労政等の関係者との連携を図り、より良い子育て支援体制を作っていくべきと考えた。